



TITLE:

# 臨床活動報告 理学療法部における 各専門領域の臨床・教育・研究活 動

AUTHOR(S):

建内, 宏重; 大畑, 光司; 玉木, 彰; 市橋, 則明

---

CITATION:

建内, 宏重 ...[et al]. 臨床活動報告 理学療法部における各専門領域の臨床・教育・研究活動. 京都大学医学部保健学科紀要: 健康科学 2007, 3: 43-44

ISSUE DATE:

2007-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/48839>

RIGHT:

臨床活動報告 — 3 —

## 理学療法部における各専門領域の臨床・教育・研究活動

建内 宏重, 大畑 光司, 玉木 彰, 市橋 則明

### はじめに

医学部保健学科教員の多くは、大学での学生教育および各々の専門領域における研究活動とともに、医学部附属病院での臨床業務を実施している。

今回の報告では、各専門領域における保健学科教員と附属病院理学療法部スタッフとの取り組みの現状について報告するとともに、今後の展望についても言及したい。

### 理学療法部における対象疾患

平成18年4月に施行された診療報酬改定によりこれまでの体系が見直され、新たに脳血管疾患、運動器、呼吸器、心大血管の4つの疾患別体系となった。現在、京大病院理学療法部では、脳血管疾患、運動器、呼吸器については基準Ⅰで実施している。改訂以降、本年4月から9月までの理学療法部における対象疾患の割合を図1に示す。脳血管疾患等リハビリテーション対象患者には外科手術後などの廃用症候群も含まれるため、運動器疾患患者の占める割合が最も高くなっていると考えられる。

### 理学療法部における各専門領域の現状

#### 1) 整形外科・スポーツ理学療法(担当: 市橋, 建内)

運動器疾患における対象疾患としては、変形性股関節症、変形性膝関節症、肩関節周囲炎、関節リウマチ、骨腫瘍などが多い。また、附属病院整形外科ではスポーツ外来を行っており、前十字靱帯損傷や投球に

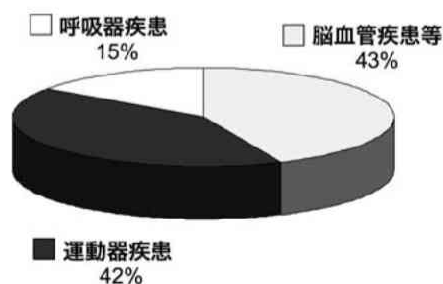


図1 疾患別 理学療法実施単位数の割合

よる肩関節障害などのスポーツ障害に対しても積極的に関わっている。

勉強会を週1回実施し、保健学科教員と理学療法部スタッフに加え他施設からも多くのセラピストが参加している。内容は、理学療法に関する文献抄読、保健学科教員による講義、整形外科医師による画像診断の講義などを行い、臨床での疑問や最新の情報についてディスカッションを行う場となっている。

#### 2) 中枢理学療法(担当: 大畑)

対象疾患としては、脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、パーキンソン病、くも膜下出血、脊髄小脳変性症などが多い。また、外来では脳性麻痺や精神運動発達遅滞などの小児リハビリテーションも多数実施されている。

中枢グループでは月1回、症例を提示して臨床の場で保健学科教員と理学療法部スタッフがディスカッションを行い、評価・治療技術の研鑽や治療方針の修正を行っている。

#### 3) 呼吸理学療法(担当: 玉木)

呼吸理学療法では、肺癌や食道癌の術前後、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺移植前後、肝臓移植後、肺結核後遺症および、心臓外科におけるハイリスク患者の術前・術後などを対象としている。

勉強会は2週に1回の頻度で開催している。保健学科教員、理学療法部スタッフおよび他施設のセラピストが参加し、症例検討や呼吸理学療法にとって必要な知識・技術の講義、呼吸器内科医師による講義などを行っており、臨床場面においても随時ディスカッショ

表1 各専門領域における研究テーマ

整形外科・スポーツ理学療法	<ul style="list-style-type: none"><li>筋力トレーニング方法の筋電図学的解析</li><li>超音波画像解析による筋の形態学的解析</li><li>トレーニング効果に関する研究</li><li>ラグビー選手の体力測定と傷害予防に関する研究</li></ul>
中枢理学療法	<ul style="list-style-type: none"><li>小児中枢疾患におけるバイオメカニクスの研究</li><li>成人中枢疾患における歩行に対する装具による影響</li><li>成人中枢疾患における Body Weight Support Treadmill Training の臨床応用</li></ul>
呼吸器理学療法	<ul style="list-style-type: none"><li>運動-呼吸リズム同調現象の分析と運動療法への応用</li><li>慢性閉塞性肺疾患に対する呼吸リハビリテーションプログラムの開発とアウトカムに関する研究</li><li>肺移植患者の運動機能と QOL に関する研究</li></ul>

ンを行いながら治療をすすめている。

なお、それぞれの専門領域では、保健学科教員と理学療法部スタッフが協力して、臨床に根ざした様々な研究を推進している（表1）。

### 今後の展望

附属病院では、平成18年度より卒後研修プログラムの一環としてメディカルスタッフ研修を院外向けに開始した。リハビリテーション部においては前述の各専門領域に準じて、骨関節疾患、小児疾患、呼吸器疾患のそれぞれに対する理学療法基礎研修コースを開催し

ている。各コースとも保健学科教員の指導のもと実際の患者を通して研修が行われている。

また、保健学科では平成19年度より大学院「人間健康科学系専攻」修士課程の開始を予定している。大学院設置の理念に基づいて臨床能力を重視した臨床大学院を目標に準備が進められており、研究者の育成とともに高度専門職医療人および教育者の育成が望まれる。そのような現状を考慮すると、現行の保健学科教員と理学療法部スタッフとの協力体制をさらに強化し、理学療法における臨床・教育・研究の新たな形を提案していく必要があると考える。